

第53回 司法制度研究会の ご案内

「司法権の独立」が脅かされ、裁判所が人権保障機関たりえなくなっている動きが、近時、いくつも顕在化し、司法に対する信頼が根底から揺らぎ始めています。

大阪空港の夜間飛行禁止を住民が求めた「大阪空港訴訟」の最高裁判決(1981年)を前に、法務省の意向を受けた元最高裁長官村上朝一氏が審理の進め方に介入し判断をゆがめたことが、当時最高裁判事を務めていた團藤重光氏のノートから明らかになりました。

また、原発事故避難者訴訟の上告審においては国側の責任が否定されましたが、元最高裁判事の千葉勝美氏が東電・国側に有利な内容の意見書を提出していました。また千葉氏をはじめ最高裁判事に任命される弁護士の所属先あるいは退職後の再就職先が巨大ローファームとなる傾向が見られます。

かつて国鉄分割民営化を推進する政府は、国鉄法務部に最高裁調査官を事実上出向させ、政府・国鉄・司法が一体となって大量人員削減プランを作っていたことも明らかになっています。

こうした司法権の独立を脅かす介入や、司法と行政との癒着の実例を分析し、司法をどのようにしたら「再生」させられるのかについて、みなさまとあらためて考えたいと思います。

参加申込み方法

- ◆メールに、氏名・連絡先・参加方法(オンラインまたは主婦会館)を明記のうえ、info@jdla.jp(日民協本部事務局)までお送りください。
※オンライン参加の方には、集会前日に参加用URLとレジユメ等をお送りします。
- ◆右のQRコード、もしくは、<https://x.gd/yDyOt>からもお申し込みができます。



会場案内

JR四ツ谷駅 麹町口前
主婦会館プラザエフ

〒102-0085
東京都千代田区六番町15番地
TEL 03-3265-8111
FAX 03-3265-8581
E-mail front@plaza-f.or.jp
URL www.plaza-f.or.jp

- JR(中央線)四ツ谷駅麹町口より徒歩1分
- 地下鉄(丸の内線・南北線)四ツ谷駅から徒歩2分
- 専用駐車場の収容台数には限りがあります

<お問合せ先>

日本民主法律家協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-4 AMビル2F
TEL 03-5367-5430 FAX 03-5367-5431
Mail info@jdla.jp HP <http://www.jdla.jp/>

いま改めて 司法権の独立を考える

日時 2023年11月23日(木・祝) 午後1時から午後5時30分
場所 主婦会館プラザエフ9階会議室スズランおよびオンライン
参加費 主婦会館・1000円(学生・院生・修習生500円)※コピー付
オンライン参加・無料

主催
日本民主法律家協会
協賛
全司法労働組合

第53回司法制度研究集会 いま改めて司法権の独立を考える

プログラム

12:30 開場／オンライン受付開始

13:00 開会

13:05 講演1

大阪空港訴訟から考える 「裁判官の独立」 — 團藤重光ノートの分析

佐藤岩夫 氏 (東京大学名誉教授)



1958年生まれ。東京大学社会科学研究所教授等を経て、2023年4月から東京大学相談支援研究開発センター特任教授。東京大学名誉教授。龍谷大学「團藤文庫研究プロジェクト」メンバー。専門は法社会学。著書に『市民社会の法社会学』（日本評論社、2023年）、『司法の法社会学 I・II』（信山社、2022年）など。

関連発言

大阪空港訴訟での 最高裁大法廷回付

松森彬 氏 (弁護士、大阪空港訴訟弁護団)

～休憩～

14:10 講演2

最高裁判事と 巨大ローファームの蜜月

後藤秀典 氏 (ジャーナリスト)



1964年生まれ。NHK「消えた罫元10年の軌跡」、「分断の果てに「原発事故避難者」は問いかける」(貧困ジャーナリズム賞)などを制作。岩波書店『世界』に「東京電力 11年の変節」連載。2023年8月に著書『東京電力の変節 最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃』(旬報社)を出版。

関連発言

原発避難者訴訟について

南雲芳夫 氏 (弁護士、原発訴訟弁護団)

～休憩～

15:10 特別報告1

裁判官の国鉄出向問題

鵜飼良昭 氏 (弁護士、国労弁護団)

特別報告2

司法の独立の問題ないし 最高裁人事の問題

新屋達之 氏 (福岡大学教授・
日民協司法制度委員会委員長)

～休憩～

16:00 質疑応答、討議、アピール採択

17:20 閉会

司法制度研究集会は、1968年「司法の危機」の時代に第1回が開催された歴史のある集会で、今年で53回目を迎えます。

どなたでも参加できる集会ですので、皆様ぜひお越し下さい。

来年1月末に発行される日民協の機関誌「法と民主主義」2024年2/3月号で、本集会の特集記事を掲載しますので、あわせてご覧下さい。